

壮年期にある軽症脳卒中患者のセルフマネジメント 自己評価尺度の信頼性・妥当性の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-03-12 キーワード: 作成者: 内田, 香里 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003359

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 21 号

壮年期にある軽症脳卒中患者のセルフマネジメント自己評価尺度の開発と活用可能性の検討

(Development and Verification of a Self-management Scale in middle-aged mild stroke survivors)

内田 香里 (うちだ かおり)

博士 (看護学)

論文内容の要旨

【目的】 壮年期における軽症脳卒中患者のセルフマネジメントを測定する自己評価尺度原案を作成し、尺度原案の信頼性・妥当性及び活用可能性を検討する。

【方法】 インタビュー調査により壮年期にある軽症脳卒中患者のセルフマネジメントの実態を明らかにし、概念化した。その結果を基に、軽症脳卒中患者のセルフマネジメント自己評価尺度原案を作成し、信頼性・妥当性の検討を行った。さらに、試作尺度について、慢性疾患患者の先行要件、帰結を用いた質問紙調査から活用可能性を検討した。

【結果・考察】 軽症脳卒中患者のセルフマネジメントは、インタビュー調査の結果、【セルフマネジメント方策の自己決定への思索】、【セルフマネジメントの実践と生活に合わせた洗練】、【自己に合った資源の選択と活用】、【悪化予防のための医療者との協働】の 4 概念に集約された。4 概念に含まれる内容を質問文に置き換えた質問紙調査から、探索的因子分析および確証的因子分析を行った結果、<脳卒中悪化予防への思索>、<資源の活用と医療者との協働>、<後遺症と心理的安寧を保つための行動>、<自己の生活に合わせたセルフマネジメントの実施>の 4 因子 18 項目で構成され、開発初期段階における一定の構成概念妥当性は示せた。高血圧症患者の自己管理度測定尺度との間に中等度の相関が見られ、基準関連妥当性は支持された。内的整合性を示す Cronbach の α 係数は、各因子共に 0.8 前後の値を示し、質問項目の信頼性を確保できた。慢性疾患の患者のセルフマネジメントの先行要件、帰結を要因に弁別力があるかを比較検討した結果、罹病期間が長い者、薬物療法を受けている者、高血圧がある者の方がセルフマネジメントを実施する傾向にあり、これらの疾患に対する脆弱性の認知を起因とするもの、および、補助具を使用している者や心理的支援があると答えた者に対する弁別力がみられた。壮年期にある軽症脳卒中患者に対して、これらの身体状況および治療状況を考慮して関わり、資源の調整や周囲の理解を促すなどの患者を取り巻く環境を整える支援を行うことがセルフマネジメントの促進につながると考えられた。

【結論】 軽症脳卒中患者のセルフマネジメント自己評価尺度は、18 項目 4 因子構造となり、尺度の信頼性・妥当性は概ね確保された。セルフマネジメントを自己評価する本尺度の使用は、壮年期にある軽症脳卒中患者が疾患による脆弱性やすでに実施しているセルフマネジメントに気づき、さらに生活に則した洗練に活用できるツールとして活用可能であるといえた。